間伐施業から皆伐・再造林施業へ

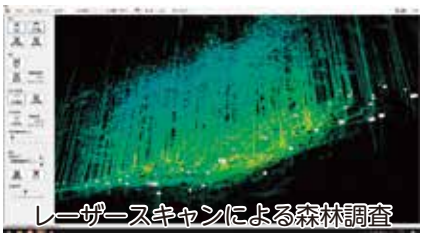
～工程分析調査業務の取り組み～

近年、全国的に人工林の高林齢化が進んでおり、これを一旦全て伐採して植林し更新する作業（皆伐・再造林作業）の必要性が叫ばれています。しかしながら、木材の価格に比べて造林や下刈のコストがかかってしまうことや、野生動物による苗木の食害により、思うように進んでいないのが現状です。

そこで、群馬県では皆伐・再造林に関連する省力化・低コスト化・森林調査等のデジタル化につながる企画提案・事業実施を支援する「工程分析調査業務」を設立しました。

組合ではこの事業を活用して倉渕町権田地内に約1haの皆伐施業地を設定し、地上レーザー機器によって林内の立木本数や材積の把握を行い、ロングリーチハーベスタなどの高性能林業機械などで伐採・搬出作業を実施しました。伐採後は外周の立木と市販のネット等の資材を利用した獣害防止柵で施業地全体を囲み、全体的に従来と比べて効率的に低コストで施業することができました。

今後は改良を加え更に充実した施業内容となるよう努力し、皆伐・再造林を推進していきたいと考えています。


レーザースキャンによる森林調査

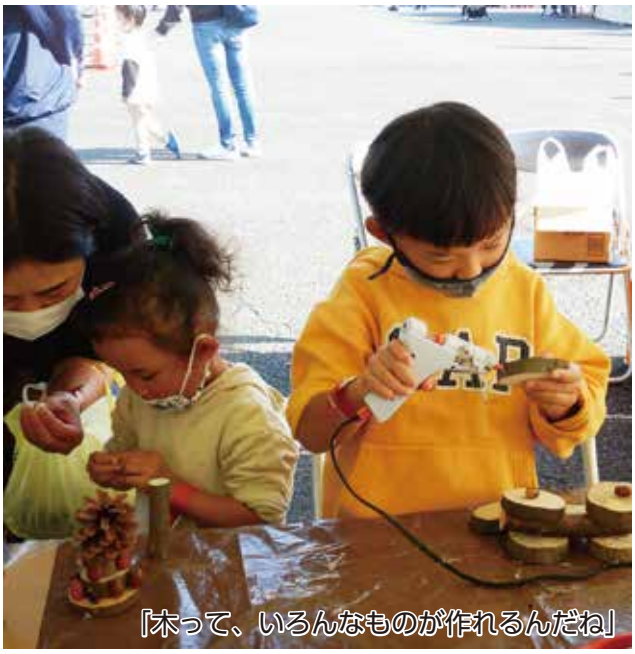
施業地全景（ドローンからの空撮）

木材の搬出

獣害防止ネットの設置

組合のテントは大にぎわい

高崎市農業まつりに出展


「木って、いろんなものが作れるんだね」

令和三年十一月二十日（土）、二十一日（日）の両日、高松町の「もてなし広場」を会場に、第三十四回高崎まつりが開催されました。

高崎の自然の恵みに感謝し、「食」の大切さを考える契機とするためのまつりですが、林業界からは本組合が唯一の出展者となりました。

職員がこの日のために材料を準備して臨んだ「子ども向けの木工クラフトづくり」は、長い行列ができるほどの人気となりました。

また、ヒノキの間伐材を利用してつくったスウェーデントーチや丸太の輪切りの販売も、アウトドアブームの中、順調に売り上げを伸ばすことができました。

コロナ禍のために二年ぶりの開催となったこのまつり、大勢の市民に森林組合の存在やその業務をアピールする良い機会になりました。